



## 番外編 君は何のために大学受験をするのか

今回は、皆さんにお話したいのは、何のために大学受験をするのかをしっかり考えてほしいということです。参考のために、ネット上で見つけた文をそのまま掲載します。(使用許諾は申請中です)

### 【大学受験の大切さ】

大学受験というと、勉強法や参考書など、受験勉強の部分に目がいきつてしましますが、勉強を開始する前に、どうしても知っておいて欲しいことがあります。

ここでは、最も伝えたかったことの一つを書くことにします。その伝えたいこととは、「何のために、大学受験をするのかを知っておく」ということです。

この「何のために～」の部分にハッキリと答えられる受験生は少ないんじゃないかと思います。強いてあげるとすれば、「良い大学に入れば、将来が安泰だから」とか「みんなが大学を受けるから自分も受験する」くらいでしょうか。

元々の動機が曖昧なので、志望校の選択も曖昧になります。ロクに志望校の調査もせず、大学名や偏差値で志望校を決めていました。当時は受験に合格することしか考えていなかったのも、志望校選択よりも、受験勉強のほうにしか意識が向いてなかったのです。今思うと、志望校の調査を徹底的にやっておけば良かったと少し後悔しています。

「大学は人生の通過点に過ぎない」とよく言われますが、まさにその通りだと思います。大学合格は、ゴールではなく、人生の一部に過ぎないのですね。大学入学までより、大学卒業後の人生のほうが圧倒的に長いです。しかし、ここからが重要なところなのですが、今の日本の社会では、自分が入った大学や学部・学科によって人生の方向性がある程度決まってしまうのです。

100%決まってしまうわけではないので、強い意志があれば進む方向を変えることもできなくはないですが、入学した大学(正確には、卒業する大学)によって、自分の人生が大きく影響を受けるというのは間違いないです。こ



## 君は何のために大学受験をするのか

の影響の大きさは、受験生が考えている以上に大きい。下手したら、一生ついてまわるほど大きいのですが、受験生の時にはそれがわからなものです。そういった影響というのは、社会人の生活に首を突っ込むようになって初めてわかります。

同時に、親がなぜ「勉強しろ、勉強しろ」と言っていたのかもわかります。決して親は、嫌がらせでそういったことを言っていたわけではないのです。日本の社会において、大学の重要性を知っていたからこそ子供のためを思って、そういった発言をしていたわけです。かつての自分は、同じように親に言われていましたが、「うるせえなあ」とか言いながら、ピコピコとゲームをやっていました(笑)今思うと、かなり親不孝な態度ですね。

### 【志望校の調査の大切さ】

さらに、日本の大学は、入学がとて難しいシステムになってます。つまり、入学した大学や学部・学科が自分に合わなかったとしても、別の大学に入り直すということがしにくいのです。なので、入学前に志望校をきちんと検討しておくことが非常に重要です。入学する大学というのは、かなり大きな影響を及ぼしますが入ってから、自分のやりたい事と違ったと思ってもなかなか変更は難しいですから。

志望校、学部・学科の調査というのは、受験勉強から少し離れていますし実際に調査などしなくても、合格ラインや過去問をきっちりと研究していれば受験に合格することはできます。

でも、調査を怠って、志望校選びを適当にやっていると、合格して入学した数年後に後悔することになるのです。面倒がって、軽視されやすいですが、非常に重要な部分なので、これから大学受験を向かえる受験生の方達はぜひ、志望校決定前に入念な調査を行って欲しいと思います。

最初のうちだけ面倒ですが、ある程度、調査すればきっと自分が満足できる大学、学部・学科が見つかるはずですよ。

で、そんな志望校の調査を始める第一歩として、いろんな大学のパンフレットを熟読することをオススメします。パンフレットに載っている学部・学科部分を読み込むことで、その学部・学科でどのようなことが学べるのかかわかってきます。

そうしたら今度は、そこで調べた内容をもとにさらに詳しい調査を行うことができます。こういった作業をこなしていくと、自分の進みたい方向もなんとなくわかってくるので、そうしたら、その進みたい方向に進めるような大学、学

部を受験すればいいんです。

すでに志望校が決定している人は別ですが、まだ志望校が決まっていない受験生は、この調査を、ぜひやってみて欲しいですね。受験合格にはあまり役に立たないかもしれませんが、受験合格後、しいては自分の人生には、メチャクチャ役に立つ作業です。この章では、かなり重苦しい話題が続きますが、ここでもこりずに重苦しい話題を続けます(笑)

テレビや学校の先生が教えてくれない学歴の意味について書きます。イキナリですが、「学閥」というコトバをご存知でしょうか? 受験生にはあまりなじみのない単語かもしれませんが、でも、社会人になると、頻繁に耳にするようになります。「学閥」の意味を wikipedia から引用するとこんな感じです。学閥(がくぼつ)とは、特定の学校、大学の出身者が、ある職業、職域、あるいは特定企業の中で圧倒的な優位や勢力をもっており、それを自分たちの地位の保全や勢力拡張に利用していると看做される集団あるいはその状態を指す。企業の場合は、その創立者やオーナー社長の出身大学や系列の銀行、関連企業でのトップの学閥などに左右されることも少なくない。また、官公庁、警察、自衛隊から、学術分野などでも学閥は珍しくない。

辞書的な文章なので、少し読みにくいかもしれませんが、雰囲気としては、あまり良い意味のコトバではないことがわかると思います。要するに、どこの大学を卒業しているかによって、就職や出世、人とのつながりが大きく影響されるということなのです。典型的な学閥の例が、キャリア官僚の世界ですね。あの世界は、東大閥が圧倒的な勢力をほこっているため、東大卒でないと出世できないようになっているわけです。

自分はこの「学閥」というコトバが好きではないんですが、社会に出たり、会社に入ったりすれば当たり前のように存在するんですね。「〇〇の会社は××大学の勢力が強い」とか「〇〇の会社は××大学卒業の人間が採用されやすい」などなど。日本の社会における学歴は、この学閥の部分に最大の意味があります。ある大学を卒業することで、同じ大学の先輩や同級生とつながりができること。大学で受ける授業よりも、こっこのほうがはるかに重要なんですね。受験生の間はず、こういった話はピンとこないかもしれませんが、大学卒業後にも、この記事を読み出していただければ幸いです。

自分の一生を左右する大学生活だからこそ、志望校は、しっかりと調査して、慎重に選びたいですね。入学する学部・学科というのはメチャクチャ大事です。通常は、偏差値表を見ながら適当に決めてしまいがちですが(笑)この学部・学科選びで、自分の将来の職業がある程度決まってしまうよ。

受験生にとって、学部や学科というのはナゾの存在です。多くの受験生にとって、各学部というのは、そこで学べる内容の違いより、その学部の偏差値の違いのほうが重要なのではないでしょうか。大学受験という難関を目前に控えている受験生にとって、入学後、どんな

学問を勉強することになるかというよりも、合格するための難易度のほうがよっぽど気になるわけですね。

仮に、自分の学力に合った学部を受けて合格したとします。すると、入学してしばらくして、それぞれの学部・学科でやっていることが全然違うことを初めて知ります。それからさらにしばらくすると、それぞれの学部や学科ごとに進んでいく人生の方向が全然違うことにも気づきます。厄介なのは、このことに気づくのが大学に入学してから1〜2年経ってからということなんです。自分のように、勢いで選んだ学部・学科が、自分のやりたいこととマッチしていれば問題ないですが、そうでない場合は、悲劇的な状況になります。入学してから1〜2年も経ってしまうと、なかなか再受験するのも大変ですし、何よりも、年齢の問題があります。こうなった場合、取るべき選択肢は2つ。①覚悟を決めて、学部・学科を変える。②自分の選んだ学部・学科で頑張ってみる。

自分的には、②のほうがいいかなと思いますが、どちらにしても、大変な道に行くことになるのは間違いないので、そうならないためにも、学部・学科選びは慎重に行いたいですね。

タイトルに「学部・学科選びで人生が大きく変わる」と書きましたが、これは決して誇大表現ではないですよ。入学する学部や学科は、卒業後の人生に大きく影響します。この記事では、学部や学科を選択する際に、最低限知っておいて欲しいことを箇条書きにしみました。理系の場合は、この傾向が特に顕著ですが、入学する学部や学科で、将来の職業がかなり決まります。自分の入った学部・学科が、自分の進みたい方向と違っていても、日本の大学のシステムでは、容易に変更はできないんですね。なので、学部・学科選びは慎重に行いたいものです。決して、自分のように、名前がカッコイイという理由で決めてはいけません(笑)

とは言っても、受験生の時点で、将来の職業をハッキリ決めるというのも大変ですね。大学の4年間をかけて、じっくりと考えていくのが、普通ではないでしょうか?なので、ここでは、最低限覚えておくべきポイントだけ書いておきます。

覚えておくべきポイントはこんな感じ。①理系は学部・学科で将来の方向がかなり決定する。②文系は学部・学科の影響をあまり受けない。基本的には、どの学部や学科でも同じような条件になる。③自分が志望する学部・学科では、どのような職業につけるのか調査しておく。

基本的にはこの3つですかね。特に、③の調査は重点的にやってもらいたいと思います。この調査に時間を取られすぎると、勉強時間が足りなくなってしまうのですが、ほとんど調査をしないのもかなり危険なので、休みの日などに短気集中で調査するつもりだと思います。



## 「人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。」

## 「でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。」

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、どういう仕事につきたいのか。どういう人生を歩んでいきたいのか。そして、そのためには、何をしたらいいのか。このテーマについて一度、じっくり考えてみて欲しいと思います。すぐに答えは出なくても、問題意識を持っているだけで、情報はスイスイと集まってきますので。

【最後に】自分がここで書いてきたことは、かつての自分に伝えたかったことなんです。受験勉強にのみ意識がむきがちですが、その根本にある部分、なぜ大学に行くのかについて、考えてもらいたくて、この章を作りました。

自分の友人と話をしているも、現在の専攻をなぜ、選んだのかについて、明確な解答ができる人は、ほとんどいません。自分も含めて、大抵は、なんとなくや、自分の学力に合っていそうだから、という理由で決めています。日本の場合、大学に入ること自体が大変なので、そういったところまで意識が向かないのも仕方ない部分があります。でも、自分の人生の方向性について考えられるのって、遅くとも、大学を卒業するまでだと思います。なぜなら、学生を卒業して、社会に出てしまうと、時間の流れが一気に加速していくからです。

これは、実際に体験してみないとわからないかもしれませんが、あつという間に、1日、1週間、1ヶ月がたっていきます。マジで笑えるぐらいに加速します。

なぜ、このように時間が加速するかというと、

## 「仕事に追われるため、自分自身の時間がほとんどなくなるからです。このことについては、自分の両親や、社会人の知り合いに聞いてみれば、詳しく教えてくれることでしょう。」

で、そういった時間が加速した状態に入ってしまうと、日々の生活を維持するのに精一杯で、とても自分の人生について考えている余裕はなくなります。だからこそ、時間的な余裕があるうちに、

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。

でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。

なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、

## 「でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。」

## 「でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。」

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、どういう仕事につきたいのか。どういう人生を歩んでいきたいのか。そして、そのためには、何をしたらいいのか。このテーマについて一度、じっくり考えてみて欲しいと思います。すぐに答えは出なくても、問題意識を持っているだけで、情報はスイスイと集まってきますので。

【最後に】自分がここで書いてきたことは、かつての自分に伝えたかったことなんです。受験勉強にのみ意識がむきがちですが、その根本にある部分、なぜ大学に行くのかについて、考えてもらいたくて、この章を作りました。自分の友人と話をしているも、現在の専攻をなぜ、選んだのかについて、明確な解答ができる人は、ほとんどいません。自分も含めて、大抵は、なんとなくや、自分の学力に合っていそうだから、という理由で決めています。日本の場合、大学に入ること自体が大変なので、そういったところまで意識が向かないのも仕方ない部分があります。でも、自分の人生の方向性について考えられるのって、遅くとも、大学を卒業するまでだと思います。なぜなら、学生を卒業して、社会に出てしまうと、時間の流れが一気に加速していくからです。

## 「でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。」

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、どういう仕事につきたいのか。どういう人生を歩んでいきたいのか。そして、そのためには、何をしたらいいのか。このテーマについて一度、じっくり考えてみて欲しいと思います。すぐに答えは出なくても、問題意識を持っているだけで、情報はスイスイと集まってきますので。

【最後に】自分がここで書いてきたことは、かつての自分に伝えたかったことなんです。受験勉強にのみ意識がむきがちですが、その根本にある部分、なぜ大学に行くのかについて、考えてもらいたくて、この章を作りました。自分の友人と話をしているも、現在の専攻をなぜ、選んだのかについて、明確な解答ができる人は、ほとんどいません。自分も含めて、大抵は、なんとなくや、自分の学力に合っていそうだから、という理由で決めています。日本の場合、大学に入ること自体が大変なので、そういったところまで意識が向かないのも仕方ない部分があります。でも、自分の人生の方向性について考えられるのって、遅くとも、大学を卒業するまでだと思います。なぜなら、学生を卒業して、社会に出てしまうと、時間の流れが一気に加速していくからです。

これは、実際に体験してみないとわからないかもしれませんが、あつという間に、1日、1週間、1ヶ月がたっていきます。マジで笑えるぐらいに加速します。

なぜ、このように時間が加速するかというと、仕事に追われるため、自分自身の時間がほとんどなくなるからです。このことについては、自分の両親や、社会人の知り合いに聞いてみれば、詳しく教えてくれることでしょう。

で、そういった時間が加速した状態に入ってしまうと、日々の生活を維持するのに精一杯で、とても自分の人生について考えている余裕はなくなります。だからこそ、時間的な余裕があるうちに、

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。

でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。

おかしくないくらいです。むしろ、100社受けて、10社受かることのほうが珍しいでしょう。それぐらい文系の人の就職活動は大変です。それは、なぜかと言うと、文系の場合、専門性がないからなのです。理系の場合、就職で争うのは、自分と同じ専攻の人たちだけですが、文系の場合は、全ての文系学生と争うことになります。文学部の人は、文学部の人以外、つまり法学部や商学部、経済学部などの人たちもライバルになるわけです。文系の人が就職する場合、自分の専門以外のところにも幅広く就職活動をすることができますが、専門性の壁によって守られていないので、その分、倍率は、理系の場合よりも格段に上がってしまいます。これが、文系の就職しづらさの原因になっているわけです。

なので、自分の文系の友人などは、大学に入学した早い段階から、資格試験の勉強をしていました。文系の場合、そういった明確にアピールできるものがないと、大勢のライバルに打ち勝って就職するのは厳しいようです。と、ここまで文系就職の大変さについて書いてきましたが、こと、出世に関しては、文系的な人のほうが有利なようです。理由は詳しくは書きませんが、組織の頂点にたつ人というのは、総合的な判断ができなければいけないので、専門的な理系よりも、文系のほうが上にたつ流れになっている会社が多いんじゃないかと。

まあ、でも、文系の人同士での競争も激しいように思いますが。人間の寿命が80年だとしたら、その半分は仕事をしていることになります。人生において、仕事はそれぐらい重要なことなのに、

## 「でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。」

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、どういう仕事につきたいのか。どういう人生を歩んでいきたいのか。そして、そのためには、何をしたらいいのか。このテーマについて一度、じっくり考えてみて欲しいと思います。すぐに答えは出なくても、問題意識を持っているだけで、情報はスイスイと集まってきますので。

【最後に】自分がここで書いてきたことは、かつての自分に伝えたかったことなんです。受験勉強にのみ意識がむきがちですが、その根本にある部分、なぜ大学に行くのかについて、考えてもらいたくて、この章を作りました。自分の友人と話をしているも、現在の専攻をなぜ、選んだのかについて、明確な解答ができる人は、ほとんどいません。自分も含めて、大抵は、なんとなくや、自分の学力に合っていそうだから、という理由で決めています。日本の場合、大学に入ること自体が大変なので、そういったところまで意識が向かないのも仕方ない部分があります。でも、自分の人生の方向性について考えられるのって、遅くとも、大学を卒業するまでだと思います。なぜなら、学生を卒業して、社会に出てしまうと、時間の流れが一気に加速していくからです。

これは、実際に体験してみないとわからないかもしれませんが、あつという間に、1日、1週間、1ヶ月がたっていきます。マジで笑えるぐらいに加速します。

なぜ、このように時間が加速するかというと、仕事に追われるため、自分自身の時間がほとんどなくなるからです。このことについては、自分の両親や、社会人の知り合いに聞いてみれば、詳しく教えてくれることでしょう。

で、ここからが重要な話ですが、生活していければ、どんな仕事でもいけるのでしょうか？

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。

でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。

なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。

人生の半分が仕事であるならば、どんな仕事を選ぶかによって、人生の方向性が、ある程度決まっていくことでしょう。それぐらい重要なことなんです。でも、この重要性について、詳しく教えてもらう機会は自分の今までの人生では、ほとんどありませんでした。学校などでも、ほとんど教えてくれません。

なので、こういった類の情報は、自分で積極的に集めないで決して、集まってくることはありません。自分が将来どういった方向に進み、

## 【就職活動と大学選択】

大学にすら合格してないのに、もう就職の話しかよこんな風に思われるかもしれません。確かに、自分もそう思います(笑)でも、いつか役に立つ情報だと思うので、書いてしまいます。自分は高校時代に「理系は文系より就職しやすい」という話をよく聞きました。そういった情報と、自分が数学が好きだったこともあり理系に進みました。今思うと、その情報は確かに正しいです。

就職活動をする大学生の傾向を眺めていると、文系より理系のほうが明らかに就職がしやすいそうです。

文系の学生は、何十社という会社の就職試験を受けて、その中で、内定(受験で言う合格)までたどり着けるのが数社くらい。それに対し、理系の学生は、多くても十社くらいしか就職試験を受けません。その中で内定にたどり着けるのが、同じく数社くらい。

逆に、自分の学部・学科と関係の無い会社へ就職するのは至難のワザなんです。

大学受験に例えると、この就職のしやすさの違いがわかるんじゃないでしょうか?数字の上だけで言ったら、明らかに理系のほうが就職しやすい感じですよ。では、なぜこれほどまでに就職のしやすさが違うんでしょうか。そのカラクリは、理系の専門性の高さにあります。

理系の場合、大学で学ぶ授業は専門性が高いため、自分の入学した学部・学科に関連する業界の会社へは、圧倒的に有利に就職することができるんです。

関連業界の会社へは、上に書いたように十社くらい受けて、数社も内定がもらえるくらい有利です。

逆に、自分の学部・学科と関係の無い会社へ就職するのは至難のワザなんです。

(というか、そもそも受けようとしないうか。)機械系の勉強をした人が、建築系の会社に就職するのはかなり厳しいです。建築系への就職は、建築系の勉強をした人が圧倒的に有利ですから。だからこそ、理系というのは学部や学科の選択が重要なんです。入学が決定した時点で、将来の方向性がある程度決まってしまうんですね。(↑何回も書いてますが、一応念のため(笑))

理系は、専門性が高いために、就職はしやすいですが、その就職先は、入学時点ですですでにせばまっていることを覚えておいていただければ。理系の就職事情に続き、文系の就職事情も書きます。文系は、理系に比べて、就職しづらいことは確かですが、就職した会社で大出世しようと思えば、文系のほうがいいでしょう。文系の人が、就職活動をする場合、100社受けたら、90社ぐらいから不合格をくらっても

おかしくないくらいです。むしろ、100社受けて、10社受かることのほうが珍しいでしょう。それぐらい文系の人の就職活動は大変です。

それは、なぜかと言うと、文系の場合、専門性がないからなのです。

理系の場合、就職で争うのは、自分と同じ専攻の人たちだけですが、文系の場合は、全ての文系学生と争うことになります。